

萩原地域ビジョン

令和 7 年(2025)年 8 月

萩原自治振興会

序章	計画策定にあたって	1
1	地域ビジョン策定の目的	1
2	地域ビジョンの役割	1
3	地域ビジョン策定の取組	1
1章	萩原地域の概要	2
1	位置	2
2	人口・世帯数	3
3	地域づくり活動の状況	4
2章	萩原地域の魅力・資源と問題点・課題	6
1	地域の魅力・資源	6
2	地域の問題点・課題	7
3章	萩原地域づくり計画	8
1	地域づくりの将来像	8
2	地域づくりの目標設定	8
3	地域づくりの体系	10
4	地域づくりの部門別計画	11
5	計画の推進体制	15
4章	地域づくりの重点的な取組	18
1	重点的な取組リスト	18
2	重点的な取組の内容	19
	資料1 萩原地域まちづくりアンケート結果	
	資料2 萩原地域まちづくり意見交換会での意見	

序章 計画策定にあたって

1 地域ビジョン策定の目的

萩原（はいばら）地域は、圃場整備済みの水田をはじめとする農地が広がる中に住宅が点在して、緑豊かで美しい田園環境が形成されています。また大和支所、医療機関などがある大和町中心部に近接して、比較的利便性に恵まれた地域でした。

しかし、若年層を中心とした人口の流出と少子化高齢化が進行していること、大和町中心部におけるスーパーマーケットの撤退などから、萩原地域を含む大和町北部の活力の低下が懸念される状況になっています。

こうした状況において、自分たちの地域は自分たちで考え、一人ひとりがそれぞれの立場で協力して、持続的なまちづくりに取り組むことが一段と重要になっているとの認識のもと、萩原自治振興会では様々な課題解決に取り組むため、「萩原地域ビジョン」の策定に取り組みました。

2 地域ビジョンの役割

「萩原地域ビジョン」は、萩原自治振興会が中心になって取り組むことを総合的に示したもので、住民、区、各種団体などでまちづくりの方向性を共有するとともに、共通の指針とするものです。

また、計画内容を広く発信して、地域出身者、都市住民、大学生などの幅広い応援を働きかけるために活用します。

3 地域ビジョン策定の取組

萩原自治振興会では、役員などで構成する「萩原地域ビジョン策定会議」を設置し、「萩原地域ビジョン」の策定に取り組みました。

計画策定にあたっては、住民、各種団体の幅広い意見を反映するために、萩原地域まちづくりアンケートの実施、萩原地域まちづくり意見交換会の開催、萩原地域ビジョン案骨子に係る意見募集を行いました。

1 章 萩原地域の概要

1 位置

萩原地域は、三原市の西北部に位置し、萩原コミュニティホームから主要な場所まで車を利用した場合の所要時間は、大和支所、医療機関、商業施設のある大和町の中心部へ約5分、三原市役所及びＪＲ三原駅などのある三原市中心部まで約40分です。また、隣接する世羅町中心部まで約20分、広島空港まで約25分です。

図 萩原地域の位置



2 人口・世帯数

(1) 人口の動向

本地域の総人口を住民基本台帳でみると、令和7(2025)年で354人となっており、過去5年間で約11%減少しています。

年齢3区分別人口をみると、令和7(2025)年で0～14歳15人、15～64歳150人、65歳以上189人で、高齢化率は約53%です。

年齢3区分別人口の推移をみると、過去5年間で0～14歳、15～64歳、65歳以上の年齢区分ともに減少しており、0～14歳及び15～64歳人口の減少率が30%前後と大きくなっています。

表 人口の推移

(単位：人、%)

区 分		実 数			増減数	
		H27 (2015)年	R 2 (2020)年	R 7 (2025)年	R 2 (2020)－ H27(2015)	R 7 (2025)－ R 2 (2020)
実 数	0～14歳	30	23	15	△7	△8
	15～64歳	225	175	150	△50	△25
	65歳以上	216	199	189	△17	△10
	合 計	471	397	354	△74	△43
割 合	0～14歳	6.4	5.8	4.2	－	－
	15～64歳	47.7	44.1	42.4	－	－
	65歳以上	45.9	50.1	53.4	－	－

注：人口は、住民基本台帳（各年3月末現在）。

(2) 世帯数の動向

本地域の世帯数を住民基本台帳でみると、令和7(2025)年で164世帯になっており、過去5年間で11世帯減少しています。

1世帯当たり世帯人員は令和7(2025)年で2.16人です。過去5年間に0.11人縮小しており、少人数で暮らす高齢者世帯が増加しています。

表 世帯数等の推移

区 分	実 数			増減数	
	H27 (2015)年	R 2 (2020)年	R 7 (2025)年	R 2 (2020)－ H27(2015)	R 7 (2025)－ R 2 (2020)
世帯数（世帯）	192	175	164	△17	△11
世帯人員（人）	2.45	2.27	2.16	△0.18	△0.11

注：世帯数は、住民基本台帳（各年3月末現在）。

3 地域づくり活動の状況

(1) 萩原自治振興会・区・各種団体の活動

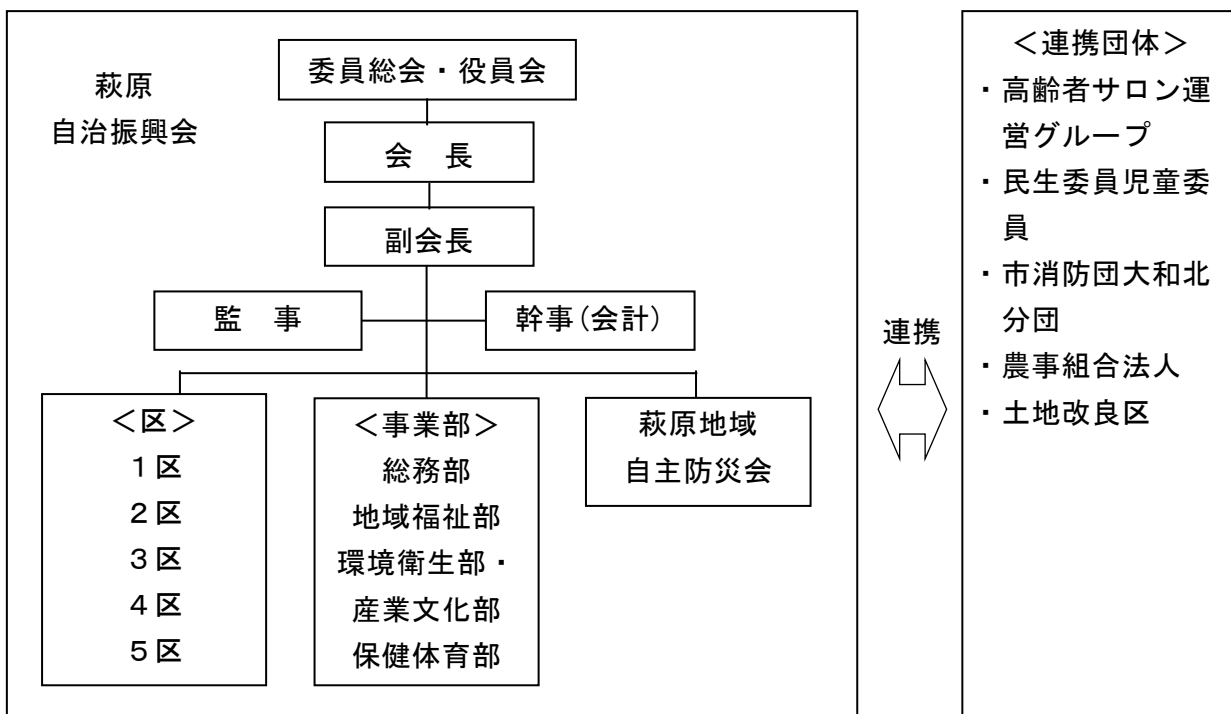
ア 萩原自治振興会

萩原自治振興会は5つの区で組織されており、「地域の連帯と活性化を図り、豊かで明るく住みよい地域をつくる」ことを目的として活動しています。

本会は、4月の委員総会で活動計画を協議・承認し、役員会で活動計画の実行に係る調整を行い、事業部が各種事業を行っているほか、本会の中に萩原地域自主防災会を設置して、防災・減災活動を行っています。

また、本会の活動拠点は、萩原コミュニティホームです。

図 萩原自治振興会の組織体制と連携団体



イ 区の活動

萩原自治振興会を構成する5つの区では、各区によって活動内容は異なりますが、主に次のような活動を行っています。

表 区の活動状況

区 分	活 動 内 容
広報活動	・各種配布物の回覧、地域内放送
環境保全	・道路・河川の草刈り等 ・散乱ゴミ追放キャンペーン（年5回）
地域福祉活動	・高齢者サロン
交流活動	・新年互礼会、とんど、泥おとし、納涼会、秋祭り、収納(すのう)

ウ その他団体の活動

萩原自治振興会・区と連携して活動している団体として、次のような団体があります。

表 4 その他団体の活動状況

団 体 名	活 動 内 容
高齢者サロン運営グループ	・ 高齢者等に対して健康づくり、親睦、日常生活知識の啓発等の活動
民生委員児童委員	・ 高齢者、障害者、児童、ひとり親世帯等の調査・実態把握、相談支援、各種行事への参加協力や自主的な福祉活動の実施等 ・ 萩原地域の民生委員児童委員は2名
市消防団大和北分団	・ 出初式への参加、消防屯所の消防設備等の管理、消防訓練、火災予防広報活動、災害時の見廻り救助支援等
農事組合法人	・ 農地を面的に集積し、効率的で持続可能な経営の確立を目指して設立された組織で、農地保全・管理、米・野菜等の生産・販売、地区環境の保全活動等の実施 ・ 萩原地域で4法人が活動
土地改良区	・ 土地改良法に基づき、農業者が集まって組織した団体で、農業用水路や農道、農地の整備や維持管理等の実施

(2) 萩原地域の行事

萩原地域全域を対象とした行事は次のとおりです。

表 5 萩原地域の行事（全域を対象）

月	名 称	行事内容
7 月	防災訓練	・ 消火器やAEDの取扱、心臓マッサージや土のう作りなどの実施訓練 ・ 市の出前講座を利用して講習会の実施
8 月	コミュニティホームの清掃・広場の草刈り	・ 年末における萩原コミュニティホームの掃除及び広場の草刈り等
9 月	敬老会	・ 75歳以上の高齢者を対象として萩原コミュニティホームで開催 ・ ステージイベント、会食、記念品の配布等
11月	市岡八幡神社神殿入り（こうどなり）神事	・ 「こうどなり」とは、「神殿入り」の訛った言葉で、氏子の家々に帰り給うた先祖の神霊を一家団欒後、家々の御神燈を掲げお供をし、本宮に見送りするという神事 ・ 秋の例大祭の前夜、全ての区から山車と御神燈が出揃うと行列が境内にのぼり、宵祭り（前夜祭）神事が始まり、神楽奉納、翌日の例大祭へと続く
	ふれあい健康のつどい	・ 輪投げ、ボーリング、玉入れ、握力測定、グラウンドゴルフ等を行い、軽運動をする機会の提供
12月	コミュニティホームの清掃・広場の草刈り	・ 年末における萩原コミュニティホームの掃除及び広場の草刈り等
3 月	楽しく歩こう会	・ 往復2キロ程度のウォーキング行事、併せて健康体操も行う

2章 萩原地域の魅力・資源と問題点・課題

「地域の魅力・資源」や「地域の問題点・課題」について、萩原地域ビジョン策定会議、萩原地域まちづくりアンケート及び萩原地域まちづくり意見交換会での意見などから整理しました。

1 地域の魅力・資源

区 分	内 容
自然資源	・豊かな自然（静けさ、山林、水、空気） ・草・木・花・土・空気・動物等 ・満天の星空、美しい星空 ・美しい田園風景 ・水田に映える美しい風景 ・神田大池、芦田川 ・ホタル、アサギマダラ、ブッポウソウ
歴史文化資源	・市岡八幡神社と神殿入り ・神楽 ・教専寺のかやぶき屋根 ・宝来山斗山寺跡地 ・原田備前守墓地・居館跡 ・後藤内蔵大夫の居所と墳墓地
社会資源	・大和町中心部に近接 ・世羅町中心部（スーパーマーケット、総合病院等）に比較的近い ・移動販売車（とくし丸）の運行 ・大和ふれあいタクシーの運行
農林業資源	・4つの農事組合法人 ・圃場整備済の水田 ・米、大和イモ、芍薬が特産品 ・マツタケ、山菜
コミュニティ資源	・自治振興会と区が連携して活動 ・自治振興会では、自主防災活動、住民の健康づくり、敬老会の開催、コミュニティホームの清掃・管理活動 ・区では、道路・河川の清掃活動、祭り及び高齢者サロンの開催等 ・近隣での助け合いによる草刈りの維持

2 地域の問題点・課題

区 分	内 容
人口等	・人口減少、少子高齢化の進行による地域活力の低下 ・若者の流出
高齢者の生活	・一人暮らし高齢者等の支援が必要な高齢者の増加（見守り、災害時の避難支援、家屋・農地等の管理、庭の管理、ゴミ出し等） ・高齢者サロンが少ない ・通院や買い物に行くための交通手段が少ない ・免許証返納後の交通手段が不安である
子ども・若者の定住	・子どもの遊び場・公園がない ・若者の就業先が地域内や近隣にない ・子どもに残れと言えない、若者の望む就職先がない
生活環境	・商店やスーパーマーケットが萩原地域や近隣になく不便 ・近隣にあったスーパーマーケットが閉店し、買い物が不便 ・道路が狭く、救急車、消防車の通行困難箇所がある ・空き家が増加している、老朽化して活用できない空き家等がある
防災・防犯	・近隣関係が希薄化しており、顔や名前がわからず、災害時の助け合いができるか不安 ・大雨時の避難路がない ・防犯灯が少ない ・中学生の通学路が夜暗い（帰宅時）
農業環境	・農家の後継者及び農事組合法人の担い手不足 ・担い手の減少、高齢化の進行により、管理できない農地が増加している ・農地の草刈りが大変、担い手がいらない ・イノシシ、シカなどの有害鳥獣被害の増加 ・有害鳥獣駆除に対する住民意識が異なること ・地域全体で有害鳥獣対策に取り組めていない ・神田大池の水管理が心配
コミュニティ活動	・若者が仕事で忙しく、地域の活動に参加できない ・雇用延長により60代で地域活動に参加する人が少ない ・役員の仕事が多過ぎて負担感がある ・役員選出方法の再検討、強制的な選出は止めたい ・高齢者の草刈りへの参加が難しくなっている ・高齢者が増加し、区・自治振興会の役員になれる人が少なくなっている ・担い手の減少に伴い、現在の行事を維持することが難しくなっており、見直し（縮小）の検討 ・区・自治振興会の組織体制の見直し、活動の再点検
情報発信	・地域の情報が伝わってこない ・萩原地域の魅力が地域外へ発信されていない

3章 萩原地域づくり計画

1 地域づくりの将来像

本計画では、地域づくりの将来像を、住民の皆さんへの意見募集の結果を踏まえて、次のとおりとします。

美しい田園を守り、元気な声を未来につなぐ萩原

2 地域づくりの目標設定

(1) 将来人口の目標

過去5年間（令和2（2020）年から令和7（2025）年）の人口推移が今後も継続した場合の人口を推計すると、地域ビジョンの策定に取り組んだ令和7（2025）年の354人から20年後の令和27（2045）年には約200人になり、令和7（2025）年と比較して6割弱になるものと見込まれます。また、0～14歳人口は令和7（2025）年の15人から20年後の令和27（2045）年には13人と微減になります（表2）。また、高齢化率は64%になることが見込まれます。

こうした状況に対して、地域づくりの将来像を実現するため、将来人口の目標を次のように掲げ（下図）、次の取り組みを行います。

○過去5年間の人口減少率の緩和に取り組みます。

○20年後の0～14歳人口を、令和7（2025）年の15人よりも増加させることを目標とします。

○この目標を達成するために、過去5年間の人口推移に加えて、人口増加に取り組みます。

こうした取組を行うことにより、20年後（令和27（2045）年）の総人口を約250人、0～14歳人口を27人と想定します。

注：人口推計は、島根県中山間地域研究センターの人口予測プログラムを用いました。

図 人口の将来目標

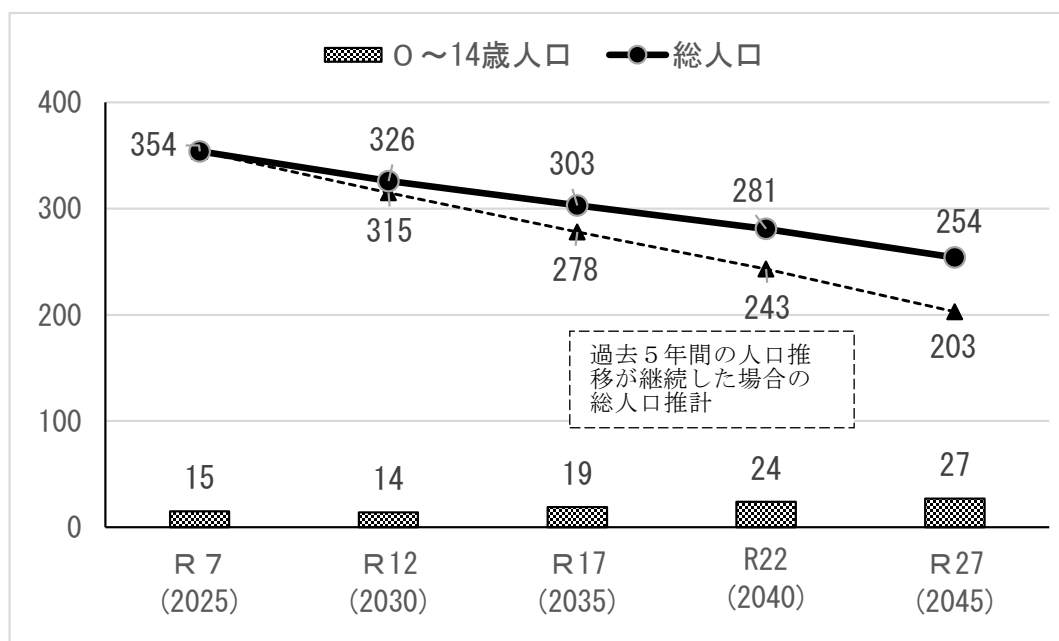


表 人口の将来目標

(単位：人)

区 分	実 績	目 標			
	令和 7 (2025) 年	令和 12 (2030) 年	令和 17 (2035) 年	令和 22 (2040) 年	令和 27 (2045) 年
0～14 歳	15	14	19	24	27
15～64 歳	150	124	117	105	98
65 歳以上	189	188	167	152	129
合 計	354	326	303	281	254

注1：過去 5 年間の推移と比較して、毎年、20歳代前半の夫婦 1 組が増加（町内定住＋UIターン）するものとした。

2：出生率は、R 7.3 末の 0～4 歳人口を R 7.3 末の 20～39 歳の女性人口で除した値。男性 0.16、女性 0.17。

3：令和 7 (2025) 年は 3 月 31 日現在の人口。

表 過去 5 年間の人口推移が今後も継続した場合の人口推計

(単位：人)

区 分	実 績	推 計			
	令和 7 (2025) 年	令和 12 (2030) 年	令和 17 (2035) 年	令和 22 (2040) 年	令和 27 (2045) 年
0～14 歳	15	13	14	14	13
15～64 歳	150	114	97	77	61
65 歳以上	189	188	167	152	129
合 計	354	315	278	243	203

注：令和 7 (2025) 年は 3 月 31 日現在の人口。

(2) その他の目標指標と目標値

ア 自治振興会加入率

現状値	めざす方向	目標値	備考
100% (令和 6 年度)	維持・継続	100% (令和 11 年度)	・現状値は自治振興会調査

イ 新規事業数

現状値	めざす方向	目標値	備 考
— (令和 6 年度)	増加	6 事業 (令和 11 年度)	

ウ 人口の増加数

現状値	めざす方向	目標値	備 考
—	増加	10 人 (令和 11 年度)	

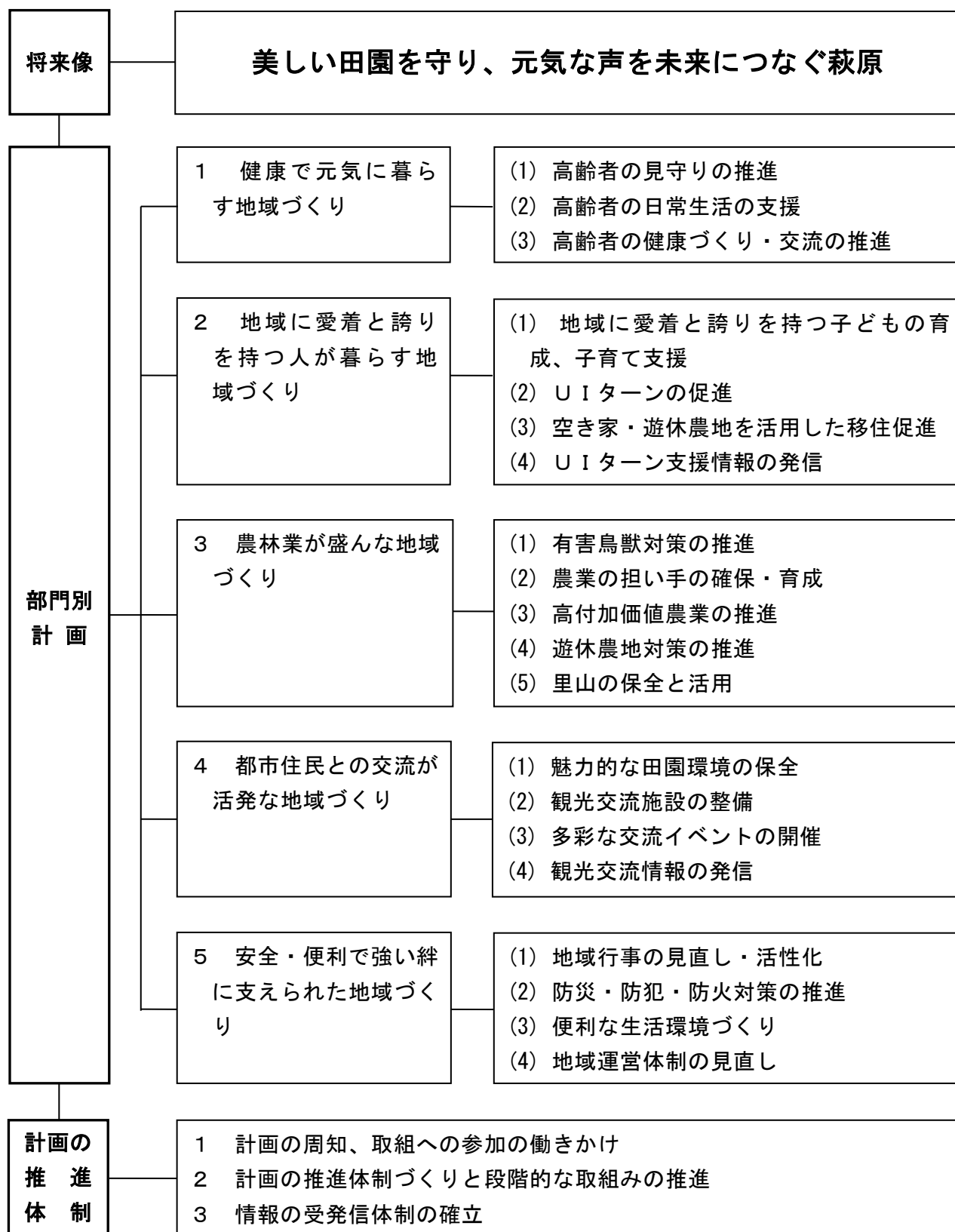
エ 情報発信体制の確立

現状値	めざす方向	目標値	備 考
SNS なし (令和 6 年度)	情報発信	SNS 運営 (令和 8 年度)	

3 地域づくりの体系

萩原地域づくりの将来像を踏まえて、地域づくりの部門別計画における5つの施策の柱と取組事項及び計画の推進体制を次のように掲げます。

図 地域づくりの体系



4 地域づくりの部門別計画

地域づくりの体系を踏まえて、部門別計画の内容は次のとおりです。

なお、部門別計画の内容は、萩原地域ビジョン策定会議、萩原地域まちづくりアンケート、萩原地域まちづくり意見交換会及び萩原地域ビジョン案骨子に係る意見募集などにおける意見のうちから、萩原自治振興会が主に取組主体になる事項をアイデア集としてまとめました。

4-1 健康で元気に暮らす地域づくり

区 分	取 組
(1) 高齢者の見守りの推進	ア 高齢者の日常的な見守り ・日常生活における近所付き合いの維持・強化 ・近隣住民と民生委員児童委員が連携して一人暮らしなどの日常生活に不安のある高齢者の安否確認、見守りの推進
	イ 高齢者に対する相談支援 ・一人暮らしなどの日常生活に不安のある高齢者の困りごとと相談支援体制の確立
	ウ 機器を活用した高齢者の異常の発見 ・緊急通報、日常生活の異常の発見、ドローン見守りなど機器を使用した高齢者の異常の発見体制づくりの検討
(2) 高齢者の日常生活の支援	ア 移動支援 ・路線バスの維持・充実、運行内容の周知と利用促進の働きかけ ・大和ふれあいタクシーの周知と運行内容の充実の働きかけ ・車を運転できない高齢者が大和町内外へ外出する際、利用しやすい交通手段の確保（地域住民による自家用車を活用したボランティア運行）
	イ 買い物支援 ・移動販売車の運行の充実の働きかけ ・民間スーパーマーケットの誘致 ・町民出資の会社設立により、商店・スーパーマーケットの整備・開業の検討
(3) 高齢者の健康づくり・交流の推進	ア 健康づくりの推進 ・ラジオ体操、百歳体操の推進（テレビでの放送、広場・集会所等で機会提供） ・健康づくりポイント制度の導入による健康づくり活動の推進（萩原地域または大和町を単位としたポイント制度の検討）
	イ 高齢者サロン活動の推進 ・萩原地域住民が幅広く交流できるサロン・カフェの運営 ・場所：萩原コミュニティホーム ・日時：定期開催（週1回～月1回） ・飲食：飲み物、軽食（カレーライス等） ・内容：趣味・教養、ものづくり、麻雀、ゲーム、カラオケ料理教室、家庭菜園教室等 ・区の高齢者サロン活動の支援
	ウ 生きがい活動の推進 ・老人会等の高齢者活動グループの育成

4-2 地域に愛着と誇りを持つ人が暮らす地域づくり

区 分	取 組
(1) 地域に愛着と誇りを持つ子どもの育成、子育て支援	ア 萩原に愛着と誇りを持つ子ども育成 ・大人（保護者）が子どもへ萩原地域の魅力を伝達 ・子ども及び保護者の交流会、世代間交流会の拡充、子ども会設立の検討（地域内の人間関係の強化） ・子ども向けイベントの開催 （自然、歴史文化、農林業等のふるさと体験、都市の子どもとの交流、インターネットを活用した体験イベント）
	イ 保護者の子育て支援 ・保護者の子育てを地域全体で支援する体制づくり ・高校生の通学手段の確保
(2) U I ターンの促進	ア 農山村体験イベントの開催 ・農山村体験イベントの開催による萩原地域のPRの推進とU I ターンのきっかけづくり
	イ 移住希望者・移住者に対する支援 ・移住希望者に対する相談支援体制づくり （情報発信、現地案内、短期地域体験の場の提供、住宅・就業先の紹介等） ・移住者に対する日常生活支援、住民との交流の場づくり、相談支援体制づくり
	ウ 地域出身者のUターンの促進 ・地域出身者との交流の維持、地域行事への参加の働きかけ ・地域出身者へUターンの働きかけ（退職時等）
	エ 若者・子育て世代の移住の促進 ・若者が移住したいと思う環境づくり ・美しい田園環境を活用したフリースクール、不登校サポート施設などの誘致と子育て世帯の移住の促進
(3) 空き家・遊休農地を活用した移住促進	ア 空き家活用による移住の促進 ・空き家調査、所有者の意向調査、空き家活用の働きかけ ・賃貸、売買意向のある空き家所有者への支援（空き家バンク、改修支援制度の紹介、家財整理の支援等）
	イ 遊休農地の活用による移住の促進 ・農業、家庭菜園希望者に対する農地貸与と営農指導
(4) U I ターン支援情報の発信	・萩原自治振興会のSNS等でU I ターン支援情報の発信（地域の魅力、生活環境、空き家、就業先等の情報） ・移住支援情報サイトや情報紙、三原市等と連携した萩原地域の魅力発信

4-3 農林業が盛んな地域づくり

区 分	取 組
(1) 有害鳥獣対策の推進	ア 地域挙げての有害鳥獣対策の推進 ・住民の有害鳥獣対策に対する理解の醸成 ・地域挙げての有害鳥獣対策チームの設立と活動の推進 イ 有害鳥獣対策に取り組む人材の確保 ・地域内で人材の確保・育成 ・地域おこし協力隊の募集 ・外部から有害鳥獣対策に関心のある人材の確保 ウ 有害鳥獣対策の推進 ・坂井原有害鳥獣対策協議会などの先進的取組の研究 ・有害鳥獣対策研修会への参加、専門機関との連携 ・農地と山際の草刈り ・共同防護柵、箱罠・くくり罠の設置 ・有害鳥獣対策補助制度の活用
(2) 農業の担い手の確保・育成	ア 地域の担い手育成 ・農家であるが、農業に従事していない後継者への農業研修の場の提供 ・子どもが農業を手伝う機会を設け、農業への関心の醸成 ・農事組合法人の持続可能な体制づくり イ 地域外からの担い手の確保 ・「おてつたび」旅行者を募集し、繁忙期の農作業の担い手として活用 注：「おてつたび」とは、地域の困りごとを手伝い、報酬を得ながら旅をする形態、「(株)おてつたび」が仲介 ・(株)ディスカバリーサポート（外国人の日本での就活支援会社）と連携して、外国人雇用による農業の担い手の確保
(3) 高付加価値農業の推進	・4農事組合法人の統合、効率的で効果的な経営体制の確立の働きかけ ・新規農事組合法人による農地の大規模区画化、機械化、A I活用によるスマート農業の推進 ・農事組合法人と一般農家の連携による萩原地域農産物のブランド化の推進 ・新規農事組合法人による集荷・加工・販売体制の構築 ・道の駅、スーパーへの出荷 ・SNSを活用した農産物のPR、直販 ・アクアポニック技術（水産養殖と水耕栽培の組み合わせ）の活用
(4) 遊休農地対策の推進	・市民農園の開設・運営 ・収穫体験農園の開設・運営 ・地域で畑の管理、オーナーは収穫のみ ・農園のPR（保育所・幼稚園、子ども会、企業等）
(5) 里山の保全と活用	・里山への関心の醸成 ・里山間伐の推進と間伐材の活用（薪ストーブ等） ・竹林の管理と伐採した竹の活用（竹炭、肥料等） ・神田マツタケの再生の研究

4-4 都市住民との交流が活発な地域づくり

区 分	取 組
(1) 魅力的な田園環境の保全	・萩原地域を特徴づけている美しい田園景観の保全 ・道路、河川等の定期的な清掃活動の継続、作業の省力化・グラントカバー導入の検討 ・空き家の適正な管理の働きかけ ・水田・畑の管理の維持（耕作放棄地を増やさない） ・里山の管理の働きかけ
(2) 観光交流施設の整備	・芦田川沿いへの桜の植樹、桜並木づくり ・城山を春秋の観光スポットとして整備（春：桜、秋：モミジ） ・芍薬を活かした観光スポットづくり ・神田大池を県最大の土堤の池としてPR ・空き家を活用した宿泊施設の整備
(3) 多彩な交流イベントの開催	・農林業体験の提供（農事組合法人、森林組合等との連携） ・草刈りイベントの開催（地域出身者、都市住民へ幅広くPR） ・梅、柿、栗等の収穫や星空観察会などの体験の提供
(4) 観光交流情報の発信	・自治振興会の情報誌、SNS等で萩原の観光交流情報の発信（四季の自然、観光交流施設、観光交流イベント等）

4-5 安全・便利で強い絆に支えられた地域づくり

区 分	取 組
(1) 地域行事の見直し・活性化	・人口減少、高齢化に対応した区行事の見直し、地域全体での開催の検討（とんど、納涼祭等） ・自治振興会行事の充実、新規行事の検討 ・市岡八幡神社の神殿入り、神楽等の伝統行事継承の支援
(2) 防災・防犯・防火対策の推進	ア 防災対策 ・各家庭の災害時対応準備、避難経路確認等の意識啓発 ・地域独自のハザードマップの作成と危険箇所一帯の管理対策の徹底 ・災害時の避難指示連絡体制の確立と避難行動要支援者の個別避難計画の作成、定期的な点検 ・避難及び避難所運営訓練の実施、マニュアルづくり ・災害時に必要な備品の準備、定期的な点検 ・災害時における給水確保のため、古井戸を活用できるように保全 ・企業と災害時支援協定の締結（ドリンクスポンサー等） ・芦田川の河床浚渫の働きかけ
	イ 防犯対策 ・防犯灯の増設 ・中学生の通学路沿い等への防犯灯の設置 ・各区の主要な場所に防犯カメラと「録画中、監視中」の看板の設置（詐欺被害・盗難防止、老人の徘徊対策等に活用）
	ウ 防火対策 ・消防団員の確保 ・消防団と連携した消火訓練の実施

区 分	取 組
(3) 便利な生活環境づくり	ア 公共交通 ・路線バスの維持・充実の働きかけ ・大和ふれあいタクシーの周知と運行内容の充実の働きかけ ・高校生の通学支援
	イ 買い物 ・神田地域の自治振興会または大和町自治振興連合会と連携した商店、スーパーマーケットの誘致 ・大和町民が出資して会社を設立し、商店・スーパーマーケットの整備・開業の検討
(4) 地域運営体制の見直し	ア 役員・部員の選出方法の改善と活動負担の軽減 ・役員・部員の民主的な選出方法の検討 ・役員・部員の負担軽減策の検討 ・高齢に伴い役員になること、草刈り等の行事に参加することが困難な場合の対策の検討
	イ 区・自治振興会活動の見直し ・人口減少、高齢化の進行を踏まえ区・自治振興会の活動の見直し ・区と自治振興会の役割分担の見直し ・区相互の交流の推進（イベント開催協力、区外住民のイベント参加による盛り上げ） ・区・自治振興会と農事組合法人等の営農団体を含めた総合的な地域運営体制づくりの検討

5 計画の推進体制

(1) 計画の周知、取組への参加の働きかけ

- ・萩原自治振興会、各区及び各種団体の会合などで「萩原地域ビジョン」の周知に取り組みます。
- ・住民一人ひとりに対して地域づくりへの当事者意識を醸成するとともに、地域づくり活動への参加を働きかけます。

(2) 計画の推進体制づくりと段階的な取組みの推進

ア 幅広い参加と持続的に活動できる体制の確立

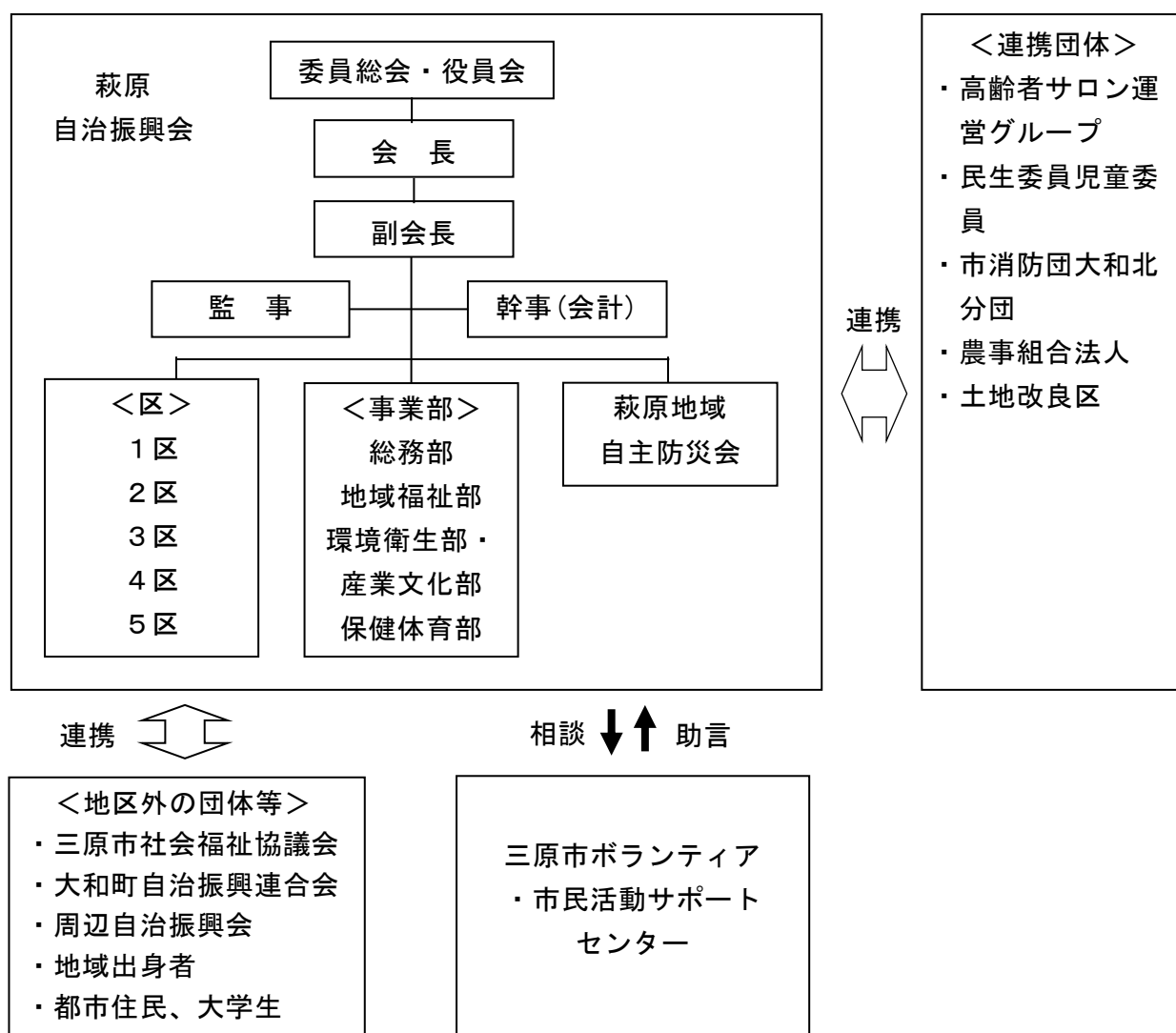
- ・萩原地域ビジョンの実行にあたっては、自治振興会の事業部が中心となり、各種事業に取り組みます。また、各区及び各種団体との連携のもとに自治振興会活動の活性化を図るとともに、各区及び各種団体の活動を支援します。
- ・自治振興会などへ女性、若者の参加を促進するため、同世代の横の結びつき、若い世代の多い消防団、保護者会などを活用した参加の働きかけ、会議の開催曜日・時刻への配慮など、参加しやすい環境づくりに取り組みます。

- ・地域の人材、企業などの得意分野を整理したリストを作成し、地域づくりに適材適所で協力してもらう体制を確立します。
- ・講習会・研修会などへの派遣、講演会の開催、先進地視察の実施などによる人材育成に取り組みます。

イ 地域外の個人、団体との連携の強化

- ・三原市ボランティア・市民活動サポートセンターと連携し、地域づくりへの助言、専門的人材の紹介・派遣などの支援を受け、地域づくり活動の維持・充実に取り組みます。
- ・三原市中山間地域の共通課題（高齢者の生活支援、UIターン促進、観光交流、情報発信等）へ効果的に取り組むため、大和町自治振興連合会及び周辺自治振興会などとの連携を強化します。
- ・地域外の団体との連携を強化して地域づくりへの応援を受けるとともに、地域出身者、都市住民、大学生などに対して、地域行事への参加や地域づくりへの応援を働きかけます。

図 萩原地域ビジョンの実行体制



ウ 活動財源の確保

- ・活動資金を確保するため、収益事業の導入を積極的に検討するほか、国、県、市などの支援制度の活用を図ります。
- ・農産物販売、観光交流事業をはじめとする収益事業の受け皿として、NPO法人、一般社団法人または住民出資の地域づくり会社などの設立を検討します。

(3) 情報の受発信体制の確立

ア 地域外への情報の受発信

- ・萩原地域の情報を広域的に発信するため、自治振興会のSNS等を開設・運営し、地域出身者、都市住民、大学生などに対して地域の魅力や年間行事・祭りのスケジュール、UIターン支援情報など、継続的な情報発信に取り組みます。
- ・各種団体、個人のホームページ・SNSを通じて、地域外の知人・友人などへの萩原地域の情報発信を働きかけます。

イ 地域内への情報の受発信

- ・地域情報を住民一人ひとりに周知できるように、告知放送システムや回覧板による情報周知の継続、地域便りの発行に取り組みます。
- ・若者世帯に対しては、SNS等を活用した情報の受発信に取り組みます。
- ・役員会、部会などの会合の日程調整、出欠確認などにおいてSNS等の活用に取り組めます。

ウ 人材の確保・育成

- ・自治振興会のSNS等を管理、活用できる人材の確保・育成に取り組み、日常的な情報の受発信体制の確立を図ります。

第4章 地域づくりの重点的な取組み

1 重点的な取組リスト

○地域づくりの部門別計画（アイデア集）では非常にたくさんの取組を掲げましたが、住民の皆さんご意見を踏まえて、16の取組を「重点的な取組」として位置付けました。

○また、重点的取組を次の3種類に区分しています。

- ① 萩原自治振興会が取り組む継続・拡充事業（継続・拡充、9事業）
- ② 萩原自治振興会が取り組む新規事業（新規、6事業）
- ③ 広域的に取り組む新規事業（広域新規、1事業）

○これら取組を全て令和8（2026）年度から実施することは、萩原自治振興会の人材、資金等の面から難しいため、今まで取り組んできたことを今後も継続することを優先するとともに、その内容の拡充に努めます。

○また、新たに取り組みたいことについては、人材や資金等の確保、関係団体との調整などの準備を踏まえて、段階的に取り組みたいと考えています。

表 地域づくりの部門別重点的取組リスト

部 門	取 組	種 別
1 健康で元気に暮らす地域づくり	(1) 一人暮らし高齢者等見守り事業	継続・拡充
	(2) 高齢者移動支援事業	継続・拡充
	(3) 高齢者健康づくり事業	継続・拡充
	(4) 萩原地域高齢者サロン運営事業	新 規
2 地域に愛着と誇りを持つ人が暮らす地域づくり	(5) 地域に愛着と誇りを持つ子ども育成事業	新 規
	(6) 空き家・遊休農地活用による移住促進事業	新 規
3 農林業が盛んな地域づくり	(7) 地域挙げての有害鳥獣対策事業	継続・拡充
	(8) 農業の担い手確保・育成事業	継続・拡充
4 都市住民との交流が活発な地域づくり	(9) 美しい田園環境保全事業	継続・拡充
	(10) 農村体験交流イベント開催事業	新 規
5 安全・便利で強い絆に支えられた地域づくり	(11) 商店・スーパーマーケット立地促進事業	広域・新規
	(12) 自治振興会行事維持・充実事業	継続・拡充
	(13) 自主防災推進事業	継続・拡充
	(14) 防犯対策推進事業	継続・拡充
6 横断的な取組	(15) 地域情報発信体制確立事業	新 規
	(16) 自治振興会・区運営見直し事業	新 規

注：若者・子育て世代移住促進の取組みは、空き家・遊休農地活用による移住促進事業に含む。

2 部門別の重点的取組の内容

1 健康で元気に暮らす地域づくり

事業名	(1) 一人暮らし高齢者等見守り事業	事業種別	継続・拡充
事業目的	日常生活に不安のある一人暮らし高齢者の安否確認、見守り、相談支援		
事業内容	・対象は75歳以上の一人暮らし高齢者等 ・近隣住民の日常的な声かけ、民生委員児童委員の定期的な訪問 ・近隣住民と民生委員児童委員の連携による見守り、相談支援、緊急時対応等の支援		
連携団体	区、民生委員児童委員、三原市社会福祉協議会		

注：三原市は各事業に何らかの形で支援することから、連携団体に記載しない。
以下同様。

事業名	(2) 高齢者移動支援事業	事業種別	継続・拡充
事業目的	車を運転できないまたは運転免許証返納予定の高齢者等に対して、様々な移動サービスの提供による外出支援の充実		
事業内容	・路線バス、大和ふれあいタクシーの運行内容の周知徹底と利用促進の働きかけ ・地域住民による新規移動支援サービスの検討 ・地域住民が運転手となり、自分の車で高齢者を移送（利用者は実費負担） ・自治振興会が主体となった仕組みづくり（運転手の確保、利用者募集、利用受付・配車等） ・各種補助制度の活用を検討		
連携団体	民生委員児童委員、三原市社会福祉協議会		

事業名	(3) 高齢者健康づくり事業	事業種別	継続・拡充
事業目的	高齢者の生きがい活動の推進、健康寿命の増進		
事業内容	・ラジオ体操、百歳体操の機会の提供 (テレビ放送、告知放送システム、広場・集会所等で教室開催) ・交通手段のない高齢者に対する送迎の検討（高齢者移動支援事業との連携） ・健康づくりポイント制度の導入（萩原地域または大和町）による健康づくり活動への参加の促進（ポイントは、地域イベントの際の屋台等で利用できることを想定）		
連携団体	区、三原市社会福祉協議会		

事業名	(4) 萩原地域高齢者サロン運営事業	事業種別	新規
事業目的	萩原地域の高齢者の引きこもりの防止、交流の推進		
事業内容	・高齢者を中心としつつ地域住民誰もが気楽に交流できる場づくり (高齢者サロンとするか、世代間交流サロンとするかは今後検討) ・運営：運営グループの組織化、または住民が利用しやすい体制づくり ・場所：萩原コミュニティホーム ・日時：定期開催（週1回～月1回） ・飲食：飲み物、軽食（カレーライス等） ・内容：体操、趣味・教養、ものづくり、麻雀、ゲーム、カラオケ、料理教室、家庭菜園教室等 ・交通手段のない高齢者に対する送迎の検討（高齢者移動支援事業との連携）		
連携団体	区、三原市社会福祉協議会		

2 地域に愛着と誇りを持つ人が暮らす地域づくり

事業名	(5) 地域に愛着と誇りを持つ子ども育成事業	事業種別	新規
事業目的	地域に愛着と誇りを持つ子どもの育成を通じて、大人になっての地域への定住率を高める		
事業内容	・大人が子どもへ萩原地域の魅力を伝達 ・子ども及び保護者の交流会、世代間交流会の拡充、子ども会設立の検討（地域内の人間関係の強化） ・子ども向けイベントの開催 ・自然、歴史文化、農林業等のふるさと学習体験の提供 ・都市の子どもとの交流（長期休暇中の交流を通じて刺激しあい、地域の魅力の再確認） ・インターネットを活用した体験イベントの開催（ゲーム等）		
連携団体	子どもの保護者、農事組合法人、森林組合、各種団体		

事業名	(6) 空き家・遊休農地活用による移住促進事業	事業種別	新規
事業目的	地域の空き家、遊休農地を活用した地域外からの移住の促進、地域の活性化		
事業内容	① 移住希望者への相談支援 ・相談窓口の設置（萩原自治振興会のSNS等） ・移住相談への対応（住民による相談支援、現地案内、住民との交流等） ② 空き家の活用 ・空き家の管理・活用研修会の開催（三原市へ講師派遣依頼） ・空き家調査、空き家予備軍の調査、活用可能な空き家の発掘 ・空き家所有者の意向調査、空き家活用の働きかけ ・賃貸、売買意向のある空き家所有者への支援（空き家バンク、改修費補助等の支援制度、不動産業者の紹介等） ③ 移住者への支援 ・家財整理、改修工事（DIY）の支援 ・生活習慣、近隣関係に係る相談支援、暮らしのガイドブックの作成・配布 ・住民と移住者、移住者相互の交流機会の提供 ④ 農業、家庭菜園希望者に対する農地の斡旋 ・農地の賃貸・売買契約の支援（農業委員との連携） ・地域住民による野菜づくり等の営農指導		
連携団体	空き家所有者、遊休農地所有者		

3 農林業が盛んな地域づくり

事業名	(7) 地域挙げての有害鳥獣対策事業	事業種別	継続・拡充
事業目的	有害鳥獣による農産物被害の軽減を図るために、地域を挙げての対策の研究、実施		
事業内容	① 地域挙げての有害鳥獣対策の検討 ・住民の有害鳥獣対策に対する理解の醸成 ・地域挙げての有害鳥獣対策に取り組む体制づくり ・過去の有害鳥獣対策の問題点・課題の把握、対策の検討 ② 担い手の確保 ・既存人材のネットワーク化、研修・講習会への派遣による技術向上 ・新規人材の確保（地域おこし協力隊員、有害鳥獣対策に関心のある人材の募集） ③ 有害鳥獣対策の推進 ・先進的な取組の研究（坂井原有害鳥獣対策協議会の活動等） ・専門機関との連携（（一社）広島県鳥獣対策等地域支援機構「tegos（テゴス）」、島根県中山間地域研究センター、大学等） ・農地と山際の草刈りの推進 ・共同防護柵、箱罠・くくり罠の設置 ・三原市イノシシ防護柵設置補助事業等の活用		
連携団体	農事組合法人、土地改良区、猟友会		

事業名	(8) 農業の担い手確保・育成事業	事業種別	継続・拡充
事業目的	地域の基幹産業である農業の担い手育成による農地の保全・営農の維持		
事業内容	① 地域の担い手育成 ・農家であるが農業に従事していない後継者への農業研修の場の提供 ・子どもが農業体験する機会を設け、農業への関心の醸成 ・農事組合法人の持続可能な経営体制の確立 ② 地域外からの担い手の確保 ・「おてつたび」旅行者を募集し、繁忙期の農作業の担い手として活用 ・応募した旅行者の宿泊場所、地域内での移動手段の確保 注：「おてつたび」とは、地域の困りごとを手伝い、報酬を得ながら旅をする旅行の形態、「(株)おてつたび」が仲介		
連携団体	JAひろしま、農事組合法人、「(株)おてつたび」		

4 都市住民との交流が活発な地域づくり

事業名	(9) 美しい田園環境保全事業	事業種別	継続・拡充
事業目的	萩原地域を特徴づけている美しい田園景観の保全・維持		
事業内容	・道路、河川等の定期的な清掃活動の維持、作業の省力化・グランドカバー導入の検討 ・空き家の適正な管理の働きかけ（区、自治振興会） （空き家所有者と自治振興会が契約し、空き家の管理、敷地周りの草刈り等の実施の検討） ・水田・畑の保全、営農の維持（農家、農事組合法人）の働きかけ ・山林所有者への適正な管理の働きかけと一部山林・竹林の活用 （山菜採り、タケノコ掘り、梅・柿・栗の収穫、間伐等）		
連携団体	農事組合法人、森林組合		

事業名	(10) 農村体験交流イベント開催事業	事業種別	新 規
事業目的	地域資源を活用したイベント開催を通じて、都市住民との交流の推進、地域の活性化		
事業内容	① 観光交流イベントの企画 ・農事組合法人と連携して多様な農業体験の提供（野菜、梅、柿、栗、山菜採り等の収穫体験） ・森林組合と連携した間伐、木工体験 ・星空観測会等の自然観察・体験 ・地域草刈りイベントの開催（地域出身者、都市住民、大学、企業等へのPR） ② 受け入れ体制づくり ・萩原自治振興会のSNSによる観光交流資源、イベントのPR ・地域案内パンフレットの作成 ・空き家を活用した宿泊施設の整備		
連携団体	農事組合法人、山林所有者		

5 安全・便利で強い絆に支えられた地域づくり

事業名	(11) 商店・スーパーマーケット立地促進事業	事業種別	広域・新規
事業目的	スーパーマーケットが廃業した大和地域北部または大和町全域の買い物利便性の向上		
事業内容	① 推進組織の設立 ・神田地域の自治振興会または大和町自治振興連合会、三原臨空商工会と協議し、事業推進組織の設立の検討 ② 取組内容 ・民間スーパーマーケットの誘致 ・大和町民が出資して会社を設立し、スーパーマーケット整備・開業の検討 ・各種支援制度の調査、活用の検討		
連携団体	神田地域の自治振興会、大和町自治振興連合会、三原臨空商工会		

事業名	(12) 自治振興会行事維持・充実事業	事業種別	継続・拡充
事業目的	萩原自治振興会事業が取り組んできた行事の維持または充実		
事業内容	<既存行事の維持> ・コミュニティホームの清掃・広場の草刈り ・敬老会の開催 ・市岡八幡神社神殿入りへの参加、支援 ・ふれあい健康のつどいの開催 ・楽しく歩こう会の開催 <新規行事> ・萩原地域全体の夏祭り（納涼祭）、サロン、新規イベント開催の検討		
連携団体	区		

事業名	(13) 自主防災推進事業	事業種別	継続・拡充
事業目的	自主防災活動による安全で住みやすく、災害に強い地域づくり		
事業内容	・各家庭の災害時対応準備、避難経路確認等の意識啓発 ・地域独自のハザードマップの作成と危険箇所一帯の管理の徹底 ・災害時の避難指示連絡体制の確立と避難行動要支援者の個別避難計画の作成・点検 ・避難及び避難所運営訓練の実施、人員配置等のマニュアルづくり ・災害時に必要な支援備品の準備・点検 ・災害時における給水確保のため、古井戸の保全・活用準備 ・企業と災害時支援協定の締結（ドリンクスポンサー等） ・芦田川の河川改修の働きかけ		
連携団体	民生委員児童委員、市消防団大和北分団		

事業名	(14) 防犯対策推進事業	事業種別	継続・拡充
事業目的	防犯対策の強化により、誰もが安全安心に生活できる地域づくり		
事業内容	① 防犯灯の整備 ・地域内の防犯灯の整備状況の確認、不足箇所への設置 ・自転車通学の中学生の帰宅時の安全を確保するために防犯灯の設置 ② 防犯カメラの設置 ・不審者対策、盗難防止、高齢者の徘徊対策等に活用するため、各区の主要な場所への防犯カメラ及び「録画中、監視中」の看板の設置		
連携団体	民生委員児童委員、大和中学校、下徳良駐在所		

6 横断的な取組

事業名	(15) 地域情報発信体制確立事業	事業種別	新規
事業目的	地域内外へ情報発信体制の確立		
事業内容	① 広域への情報発信 ・自治振興会のSNS等の開設・運営 ・地域の魅力、観光交流イベント、UIターン支援情報等の発信 ② 地域内への情報発信 ・地域便りの発行（行事予定、住民・グループ紹介） ・SNS等を活用した行事案内、グループラインによる役員会、部会の開催		
連携団体	大和町自治振興連合会、大和町観光協会		

事業名	(16) 自治振興会・区運営見直し事業	事業種別	新規
事業目的	人口減少、高齢化の進行に対応した自治振興会・区の今後の活動のあり方の検討		
事業内容	・区・自治振興会の今後の活動のあり方検討委員会（仮称）の設置 ・他地域の事例収集・研究 ・人口減少・高齢化の進行を踏まえた区・自治振興会運営の見直し（活動縮小、住民負担の軽減） ・区の今後の運営見通しの確認と自治振興会と区の役割分担の検討 ・区相互の交流に係る検討（イベント開催協力、区外住民のイベント参加による盛り上げ） ・各種団体、農事組合法人等の農業団体を含む包括的地域運営組織設立の検討		
連携団体	区		